

旭川市医師会女性医師部会の主要な活動の一つ、旭川医科大学の女子医学生との懇談を目的とした「医学部学生と女性医師の語る夕べ」が、11月12日（水）、医師及び学生計43名の出席を得、旭川医科大学機器センターカンファレンスルームにて行われました。今年で5回目となったこの会の、今年のテーマは「女性医師を支えるパートナーとして」。昨年までは、「生涯において、いかに女医という仕事を継続させていくか」を中心とした懇談が主でしたが、今年はちょっとコーヒープレイク的な話題としてみました。

まず、旭川医大二輪草センター特任助教 堀仁子先生に「旭川医大医学部学生の育児に関する意識調査結果報告」をしていただき、次に、旭川厚生病院小児科主任部長 坂田宏先生に、「僕たち二人の歩んできた道 一分流のサポートの仕方」と題したお話をしていただき、小グループに分かれ、グループディスカッションを行いました。和気あいあいとした、賑やかな会話に時を忘れてしまうほど。参加される学生さんたちの数は決して多くはありませんが、皆さん、しっかりとした目的を持って会に参加されるようになってきたように思われます。自分の将来設計を頭に描きつつ、熱心に質問していた男子学生さん（この方の奥様は、研修医なのだそうです）も印象的でしたが、今年は、社会人入学された方の参加が目立ちました。医学部全体の方針で社会人入学の方が増加してきているようですが、彼女らの話を通して、女性の場合は男性と比較し、自分の年齢がひとつの足かせになってしまう可能性があり、きちんとした対策の必要性を改めて感じました。時間を忘れてしまうほど、あっという間の2時間半でした。共催していただき、いろいろご協力いただいた旭川医大二輪草センタースタッフの皆様

謝いたします。

参加された学生さんたちの感想を紹介させていただきます。また、旭川医大二輪草センターの堀先生の「旭川医大医学部学生の育児に関する意識調査結果報告」はとても面白い内容でしたので（土地柄のせいも、九州では全く違う統計が出るそうです）、合わせてご紹介させていただきます。

「参加された学生さんの感想から」

- ・1年生：出てみるだけ出てみようと思った程度の気持ちで参加しましたが、大変勉強になりました。女性医師のお話を聞いて、これからの指針を考えるのにとっても参考になり、またこのようなグループ懇談を行っていただけると嬉しいです。
- ・2年生：先生方の貴重なお話を聞くことができ、有意義な時間になりました。将来を考えて不安に思うことが多かったですが、たくさんの選択肢があることを知り、心強く思いました。
- ・3年生：とても参考になる貴重なお話をありがとうございました。講演会、懇談会ともにとても為になりました。また機会がありましたら、ぜひ参加させていただきたいと思います。
- ・4年生：開業医、市中病院・大学病院での勤務医など、様々なところで働いていらっしゃる女性医師の方たちの話を、ロールモデルのようなかたちでもっとお聞きしたいです。
- ・5年生：現役の先生方のお話を直に聞けるのは、貴重でした。来年度は、男子学生を巻き込んだ開催ができると、さらに良くなると思います。

「旭川医大医学部学生の育児に関する意識調査結果報告」



旭川医大医学部学生の 育児に関する意識調査の結果報告

旭川医大 二輪草センター 堀 仁子

2008. 11.12 医学部学生と女性医師の語るタベ

アンケートを施行した背景

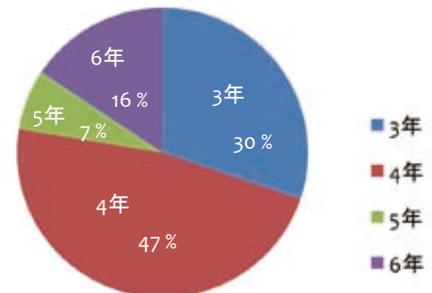
- ・ 医師不足や医療崩壊の危機が問題となっている中で、出産や育児のために休職せざるを得ない、あるいは復帰の機会に恵まれない女性医師が多く存在する現状は、早急に改善する必要があるといわれている。
- ・ 今後医師となる学生に、将来に対する不安や改善が必要と考えていることを調査し、今後の対応策に役立てるために、北海道女性医師の会から二輪草センターに男女共同参画に関するアンケートの依頼があった。

対 象：3年生から6年生

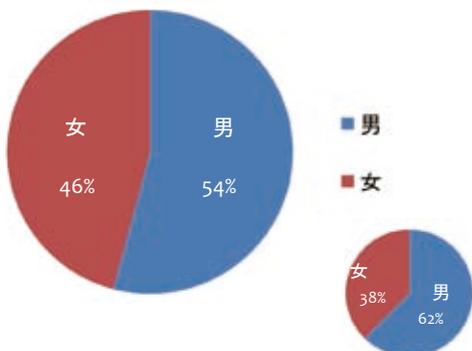
実施時期：2008年12月

回収率：48% (192名)

学生の内訳

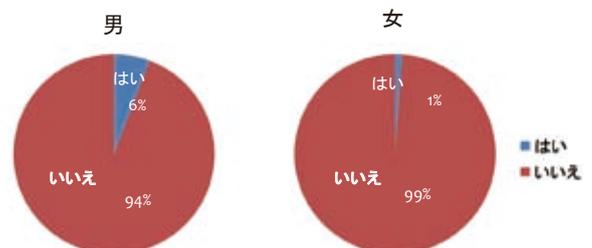


男女比

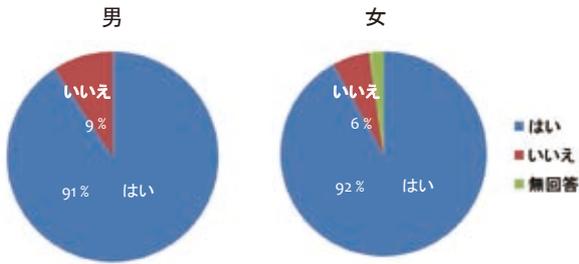


旭川医大の医学部医学科学生の男女比

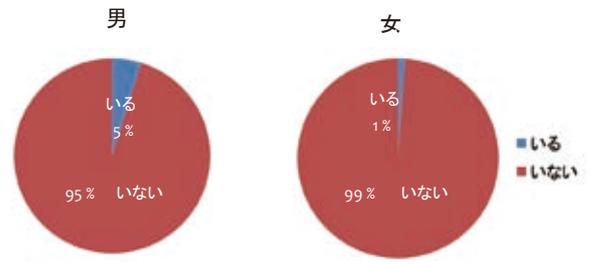
Q. 結婚していますか？



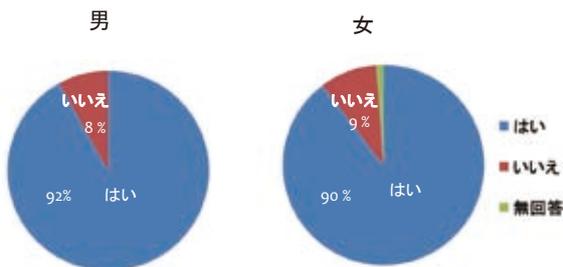
Q. 将来結婚したいですか？



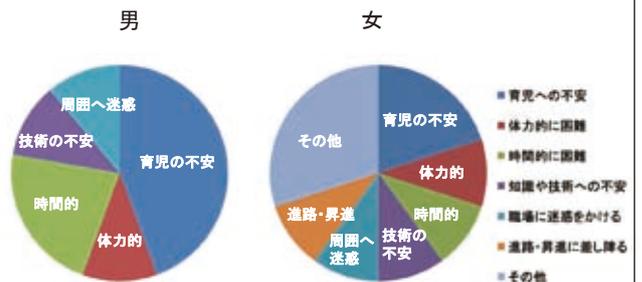
Q. 子供がいますか？



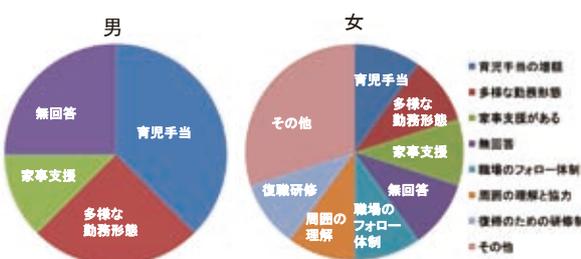
Q. 将来子供を持ちたいですか？



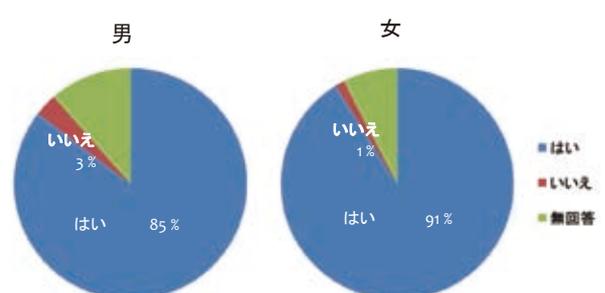
Q. 子供を持ちたくない理由は何ですか？



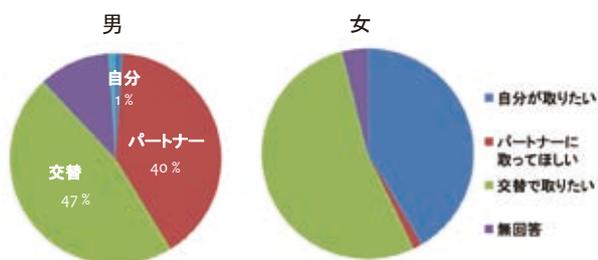
Q. どんな対策があれば子供を持ちたいと思いますか？



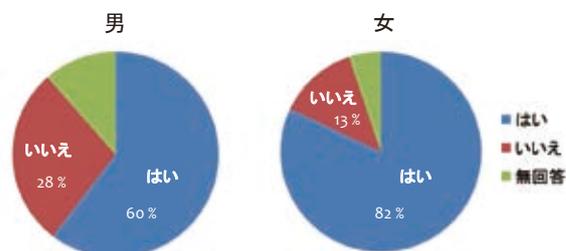
Q. ご自身が子育てに参加したいですか？



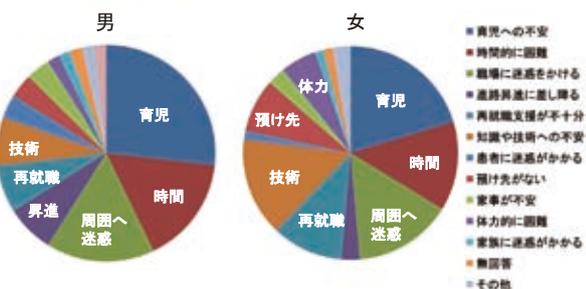
Q. 育児休暇についてどう思いますか？



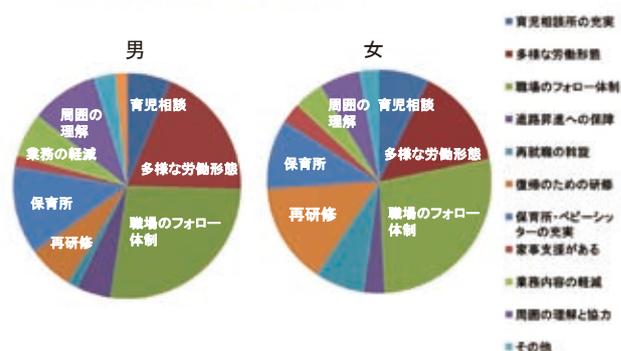
Q. 子供を持つこと、子育て中であることに不安を感じますか？



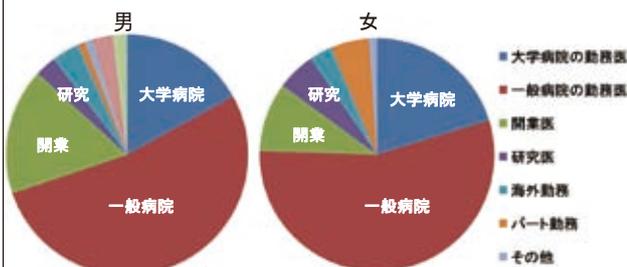
Q. 子供をもつことに不安を感じる要因は何ですか？



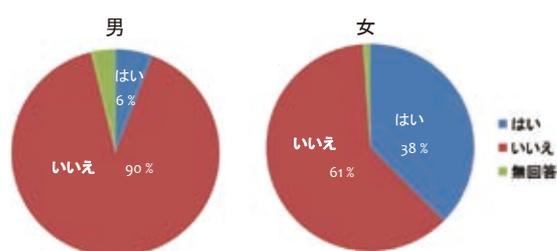
Q. どんな対策があれば、その不安は軽減されるとおもいますか？



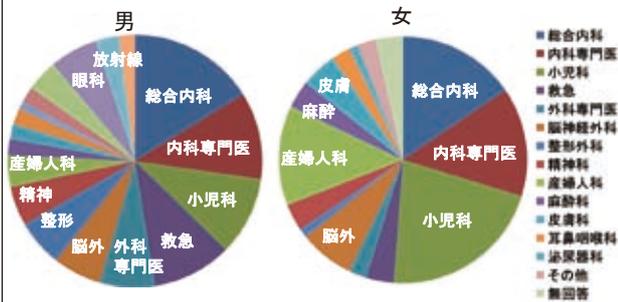
Q. 将来進みたい進路は？



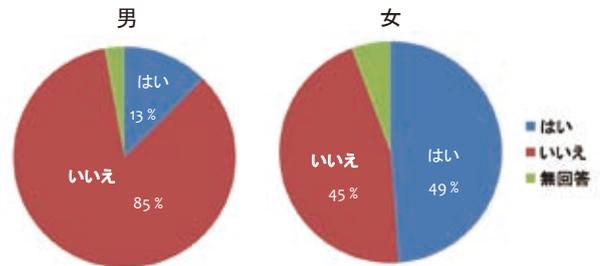
Q. 性別が進路の選択に影響を及ぼしていますか？



Q. どの診療科に興味を感じますか？



Q. 性別が診療科の選択に影響を及ぼしていますか？



アンケート調査から

- 男女ともに多くの学生が、将来子供を持ち育児に参加したいと考えている。(育児休暇を交代で取りたいと考える学生が男女ともに約半数いる。)
- 子育てに対して不安を抱える学生が多く、その対応策として多様な労働形態、職場の理解、復職研修、保育所の充実などを希望している。
- 将来大学病院や一般病院への勤務希望者が多く占める。
- 現在(女性)医師の入局者が少ないとされている診療科を選択したいと考えている学生も多くいる。

その他の意見

- 女性は子供を産むという生物学的特徴を持っているので、何らかのフォローをする必要があるが、男性側としては何をどのくらい支援すれば良いのか知りたい。(4年男)
- 女性医師の労働条件の改善は絶対必要だが、男性医師の労働環境を改善しなければ、女性医師の負担も減らないと思う。(4年男)
- 男女をすべての面で等しく扱うのではなく、男女のそれぞれの特徴を生かした共同参画を望む。(4年男)

- 医療現場に女性の存在は不可欠であるので、同僚としてサポートできることがあれば協力したい。(4年男)
- 男性のみならず、女性も人生には様々な選択肢があり、それをどのように選択するかは個人の自由で尊重すべき。また、お互い様という助け合いの精神が根付いてほしい。(4年女)
- 差別と区別の混同がされないことを望む。(5年男)
- 育児に対する支援を強化してほしい。子供がいることが理由で、科の選択肢が狭まるようであれば支援できているとはいえないと思う。(5年女)

- 医師になりたいという思いと、家庭を持ちたいという思いに優劣はない。両立できるような支援体制を望む。(3年女)
- 二輪草プランを知って、旭川医大でなら子育てしながら働くことができると思った。(3年女)
- 男性も家庭を大切にできる労働環境が欲しい。男性医師が育児休暇を取得しにくい雰囲気がある。(3年男)
- 女性は、出産や育児など男性よりも大変なことが多いが、興味ある仕事を続けられることは良いことなので頑張りたい。(3年男)

- 男女とも勤務医夫婦の子育ては大変だと思う。どちらかが勤務時間を減らさなければ、子供の教育に良くないと思う。(3年男)
- 出産や育児で離職した女性の復帰が困難なのは医学界だけの話ではない。上手に対応している企業を参考にすべき。(3年男)
- 医師が皆疲弊しているのをまずどうにかするべきだ。(3年女)
- 医師免許がある限り、勤務地を変更しても医師であり続けることが可能であり、恵まれている環境にあると思う。(3年女)

- 30歳までに子供は1人は欲しいと思っていたが、復帰可能なのが不安。男性側の育児休暇を増やしても、取得する人は少ないであろうから、まずは女性の支援に重点をおいて欲しい。(3年女)
- 結婚出産を考えて科を選べとよく言われるが、忙しいといわれる科ほど女性医師に対する配慮が足りないのではないかと感じる。(6年女)
- 学生ですら子供がいたら厳しい現実、社会的制約があることを考えると将来にあまり期待ができず、やはり女性は大変だ。(5年女)

- 女性の働く環境を整えられないのなら、女性の入学を制限した方が良くない。しかし、環境を整え医師を増員する方が賢い。(5年男)
- 男だ女だと仰々しくするのは好きではない。同じ人間なのだから、やりたいようにやればよい。(3年男)
- 出生率を上げるには、男女共同参画社会を廃止するべき。(4年男)
- 北海道男性医師の会を作って欲しい。(4年男)

二輪草センター

- 育児と仕事の両立に対する相談窓口
- ロールモデルの提示
- 各診療科へ育児支援の働きかけ
- 女性医師のみではなく、男性医師も子育てに参加しやすい環境づくり

